

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 17 年 4 月 7 日 (2005.4.7)

【公表番号】特表 2004-525137(P2004-525137A)

【公表日】平成 16 年 8 月 19 日 (2004.8.19)

【年通号数】公開・登録公報 2004-032

【出願番号】特願 2002-574924(P2002-574924)

【国際特許分類第 7 版】

A 6 1 K 7/06

A 6 1 K 7/075

A 6 1 K 7/08

A 6 1 K 7/09

A 6 1 K 7/11

【F I】

A 6 1 K 7/06

A 6 1 K 7/075

A 6 1 K 7/08

A 6 1 K 7/09

A 6 1 K 7/11

【手続補正書】

【提出日】平成 15 年 5 月 21 日 (2003.5.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

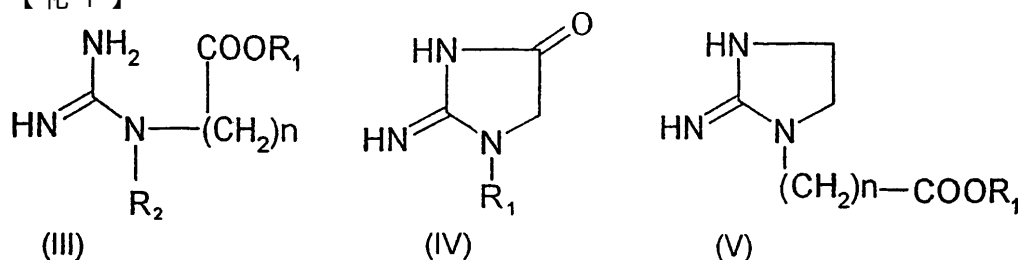
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ケラチン繊維の硬化、強化および構造回復、再生あるいは安定化のための薬剤、あるいはケラチン繊維の体積の改善のための薬剤における、クレアチン、クレアチニンおよび / あるいはこれらの塩および / あるいはこれらの誘導体の使用であって、クレアチン誘導体あるいはクレアチニン誘導体は下記一般式で表される化合物の中から選択されることを特徴とする使用。

【化 1】



(ここで R_1 および R_2 は、互いに無関係に、 H 、 $-CH_3$ 、 $-CH_2CH_3$ あるいは直鎖あるいは分枝鎖 C_3 ないし C_{22} のアルキル基を意味し、 $n = 1$ あるいは 2 である。)

【請求項 2】

クレアチン、クレアチニンおよび / あるいはこれらの塩を使用することを特徴とする、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 3】

クレアチン誘導体あるいはクレアチニン誘導体および / あるいはこれらの塩がクレアチン

ホスヘート、シクロクレアチン、ホスホシクロクレアチン、グアニジン - アセテート、3 - グアニジンプロピオン酸、グアニジン - アスコルベートおよびクレアチン - ピルベートの中から選択されることを特徴とする、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 4】

疲労および / あるいは損傷したケラチン繊維における、請求項 1 ないし 3 いずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 5】

ケラチン繊維が化学的および / あるいは物理的有毒物に曝される前に、曝される間に、あるいは曝された後に、薬剤をケラチン繊維と接触させることを特徴とする、請求項 1 ないし 4 いずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 6】

ケラチン繊維の化学的および / あるいは物理的処理の前の前処理剤における請求項 5 に記載の使用。

【請求項 7】

ケラチン繊維の再生（構造回復）に対して、あるいはケラチン繊維の内部構造の損傷回避あるいは予防に対する、請求項 1 ないし 6 いずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 8】

化学的処理に染色、調色、脱色あるいはパーマメント加工が含まれることを特徴とする、請求項 1 ないし 7 いずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 9】

反応しやすい、脆弱な および / あるいは細いケラチン繊維の理容処理に対する請求項 1 ないし 8 いずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 10】

ケラチン繊維の体積増大あるいは実質量増大に対する請求項 1 ないし 9 いずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 11】

クレアチン、クレアチニンおよび / あるいはこれらの誘導体および / あるいはこれらの塩が、薬剤中、全重量に関して、0 . 001 ないし 30 . 0 重量パーセント含有されていることを特徴とする、請求項 1 ないし 10 いずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 12】

クレアチン、クレアチニンおよび / あるいはこれらの誘導体および / あるいはこれらの塩が、薬剤中、全重量に関して、0 . 05 ないし 1 . 0 重量パーセント含有されていることを特徴とする、請求項 1 ないし 11 いずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 13】

薬剤が溶液、乳化液、泡、クリームあるいはゲルの形態で提供されることを特徴とする、請求項 1 ないし 12 いずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 14】

ケラチン繊維が人毛であることを特徴とする、請求項 1 ないし 13 いずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 15】

薬剤を 20 ないし 60 の温度において 1 ないし 60 分間ケラチン繊維と接触させることを特徴とする、請求項 1 ないし 14 いずれか 1 項に記載の使用。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

これらの他に有用な物質として、クレアチン - ホスヘート、シクロクレアチン、ホスホシクロクレアチン、グアニジン - アセテート、3 - グアニジン - プロピオン酸、グアニジン

- アスコルベートおよびクレアチン - ビルベートが挙げられる。